

# 近代日本における視覚情報メディアと 情報流通に関する情報社会史的研究

研究代表者：吉見俊哉（東京大学社会情報研究所 助教授）

共同研究者：佐藤健二（東京大学人文社会研究科 助教授）

：北原糸子（東洋大学社会学部社会学科 非常勤講師）

：富沢達三（神奈川大学大学院歴史民族資料学研究科 博士課程）

財団法人 ハイライフ研究所

近代日本における視覚情報メディアと情報流通  
に関する情報社会史的研究

代表者

東京大学社会情報研究所 助教授

吉見俊哉

# 1.資料デジタル化の企画について。

東京大学社会情報研究所には、前身である新聞研究所創立時に、創立者の一人であった小野秀雄氏によって収集された瓦版と新聞錦絵に関する大規模なコレクションがある。このコレクションは、江戸時代の瓦版を約1000枚（種類のには600程であるが、ダブリや異版もありこのような枚数となる）、明治初期の新聞錦絵を400枚弱含んでおり、今日では歴史学的にも、美術史的にも、社会学的にも、きわめて貴重な資料として、関係する研究者の間に知られている。このコレクションに関しては、旧新聞研究所の設立以来、19世紀におけるマス・コミュニケーションの実態把握という観点から、長期にわたって解読や整理の作業が徐々に続けられてきた。とくに1987年からは、外部の歴史家の協力も得ながら瓦版と新聞錦絵に焦点を当てた視覚情報メディアについての研究会も断続的に催されてきた。そして、そうした実績を緒まえ、1996年度からは、所蔵されている瓦版と新聞錦絵のテキスト部分について、本格的に解読作業を進め、パソコンでの画像データベース作成に着手しつつあった。

このような経緯を踏まえ、1997年度の貴財団の助成を受け、これまで部分的に着手されてきた前述の瓦版・新聞錦絵資料を中心として、19世紀のヴィジュアル・メディアについての解読と分析・及びデータベース化の作業を本格的にスタートさせた。これは、外部の研究者等に広く成果を公開し、利用に供する事ができるようにすることを第一の目標としている。また、同時にそうした研究作業を基礎にして、19世紀のヴィジュアル・メディアと民衆的なコミュニケーションについての研究会の開催、有意義なディスカッションを重ねて来た。こうしたデータベース化と共同研究の作業を積極的に進めることで、19世紀日本におけるヴィジュアル・コミュニケーションをめぐる社会的・技術的過程と人々のコミュニケーション環境の変容過程が明らかになりつつある。

このような研究を実現するには、社会学だけでなく、歴史学・美術史学・人類学・文学・民俗学など、諸領域の専門研究者との緊密な協力が不可欠である。本研究では、東京大学社会情報研究所の吉見、及び東京大学人文社会研究科の佐藤健二、社会史家の北原糸子、東京大学総合研究博物館の木下直之を中核的なメンバーとしながらも、歴史学、美術

史学、文学、表象文化などの文化史研究者を専門分野の境界を越えて横断的に組織し、持続的な研究ネットワークが形成されている。そして、歴史社会学的なパースペクティブを基盤としながらも、社会史や文化史、美術史などの関連領域の成果を積極的に導入して、より独創性のある研究のパースペクティブが開かれてきている。

さて、以上のような研究主旨に留意しつつ、データベース作成が行われているが、具体的なデータベース作成には以下の点を考慮して作業を行った。

- 将来的にインターネット上で公開することを前提とする。
- 過去に作成した、鯨絵・瓦版・新聞錦絵などの解読文を活用する。
- プレビュー画面を入れ、従来のテキストのみの目録に加えて、情報量を飛躍的に増やす。

これらの実現には、画像加工・貼付、フィールド作成等のパソコンの技術的な習熟に加え、近世末期から明治時代初期の古文書解読技術を必要とした。そこで、メンバーは神奈川大学大学院博士課程に在籍する富沢達三（1997年度、博士課程2年在籍）を中心として、古文書読解能力を有する大学院生・学部生が集められ、作業にあたってきた。98年の4月頃までに、中間的なバージョンが完成する。

## 2.資料の概略と、資料整理のこれまでの経緯

### ①小野コレクションの概要

◆1985年段階…佐々木隆氏による仮目録。

瓦版585枚／錦絵117枚／錦絵新聞・新聞錦絵386枚      ➡合計1088枚

その後増加した物（追加資料や、ダブリあり。現在はフィルムからの紙焼き・写真から解読している。）も合わせ1600枚。種類は、違版・数枚つづりのものを別々にカウントしたものを考慮すると、1200種類前後である。

（内訳の詳細）

瓦版…	火事112枚	地震115枚	風水害16枚	噴火7枚	触書12枚
	外国13枚	番付24枚	祭礼番付35枚	引札53枚	政治戦役80枚
	奇談32枚	武鑑13枚	その他73枚		

錦絵…	鯰絵36枚	役者絵47枚	その他88枚
新聞…	新聞錦絵1枚	錦絵新聞385枚	

### ②第一次解読作業（1985～87年頃）

瓦版のうち、災害関係（火事・地震・風水害・噴火・触書・鯰絵）/その他（奇談）を原稿化（北原担当）し、ワープロ入力（広井研究室アルバイト）の後に再チェックした。

（北原）

➡成果「江戸時代における災害情報の伝播過程」

（新聞研「災害と情報」研究班『都市災害の情報問題』1987） など

### ③瓦版研究会（1988～1990年）

広井・吉見・佐藤健二・佐藤卓巳助手（現、同志社大）・北原・他ゲスト（ヘンリー・スミスなど）

### ④瓦版研究会、第二次作業（1996年4月～現在）

第二次作業の目的と目標 ➡画像・文字情報を併合したデータベース化。原資料の保存と保護／パソコンによるデータ処理…インターネットによる情報公開。

担当 企画調整…吉見俊哉助教授

錦絵新聞…佐藤健二助教授（在イギリス）

瓦版 …北原糸子

機械入力…富沢達三（神奈川大学大学院博士課程。96年9月～）

入力手伝…松尾美穂（日本女子大学現代社会学科3年。96年9月～）

山本拓司（慶応大学大学院博士課程1年。96.9月～）

石山秀和（立正大学大学院博士課程。97.6月～）

重田麻紀（慶応大学文学部3年。97.6月～）

田中葉子（立教大学大学院1年。97.10～）

96.4月 吉見研究室にて研究会の方向性について討議。（吉見・佐藤・北原・富沢）  
…メンバー構成。研究の概要・必要な機械の購入計画。

5.8 吉見・佐藤・北原・富沢ほかによる打ち合わせ。  
…パソコンのソフト・ハードの選定などについて。

6.28 平井隆太郎（元新聞研究所助手・元立教大教授）のお宅にて聞き取り（吉見・佐藤・北原・富沢）。  
…小野コレクション入手経路・かわらばん研究などについて。テープに録音。（口述筆記をテープより起こした文章有り。）

8.27 吉見・佐藤・北原・富沢による打ち合わせ  
…パソコンのソフト・ハードの件。解読作業の進行状況についてなど。

9.26 吉見・佐藤・北原・富沢ほかで打ち合わせ  
…パソコンの入力に際しての問題点の検討（旧字・旧かなづかいをどうするか、解読作業の進行状況についてなど）。

10.25 吉見・佐藤・北原・富沢ほかで打ち合わせ

11.29 吉見・佐藤・北原・富沢ほかで打ち合わせ

#### ◆97.2.18 第1回 メディア研究会

…吉見・佐藤・北原・富沢・松尾に加え、木下直之・土屋礼子・平田由美が参加。社会情報研究所資料の見学・機械入力・検索の実演／佐藤・土屋による発表など。

#### 発表論題

土屋礼子 『錦絵新聞の歴史的な位置づけ — 読売瓦版と絵入り小新聞の間』

佐藤健二 『小野秀雄旧蔵 新聞錦絵のデータ化作業について』

発表は録音し、テープから起こして修正の上、参加者に配布。

#### ◆97.7.18 第2回 瓦版・新聞錦絵（研究会名をメディア研究会より変更）

…吉見・北原・富沢・松尾などに加え、木下直之・土屋礼子・平田由美が参加。社会情報研究所資料の見学・機械入力・検索の実演、発表など。

#### 発表論題

北原親子 『ノルマントン号事件と義捐金問題』

発表は録音し、テープから起こして修正の上、参加者に配布。

#### ◆97.10.17 第3回 瓦版・新聞錦絵研究会

…吉見・北原・富沢・松尾などに加え、木下直之・土屋礼子・平田由美・村上直之・姜竣・宮本大人・岩崎均史・延廣真治が新たに参加。

#### 発表論題

姜 竣 『はじまりの事態 街頭紙芝居の出現と教育紙芝居の自己形成史』

宮本大人 『明治期における「漫画的」なものとその周辺』

発表は録音し、テープから起こして修正の上、参加者に配布。

◆98.1.23 第4回 瓦版・新聞錦絵研究会

…吉見・北原・富沢・松尾などに加え、木下直之・土屋礼子・平田由美・村上直之・姜竣・宮本大人・岩崎均史・延廣真治。木下発表など。

発表論題

木下直之 『瓦版に浮かぶ船』

また、研究会のほか、98年3月17・18・19日 にかけて関西方面への見学旅行会も行われた。場所は香川大学図書館・大阪市立博物館・大阪城天守閣の3ヶ所。瓦版・錦絵新聞・引札など、2000点ほどを閲覧し、参加者は瓦版・新聞錦絵研究会のメンバー16名であった。また17日の夜、今後の方針などにつき、宿泊のホテルにて会議を行った。

### 3.実際の作業内容について

社会情報研究所の瓦版・錦絵・錦絵新聞等の資料は、ダブっているものも含め、1200種類程度が存在する。以前、日本マイクロ社によって35mmカラーとモノクロのマイクロフィルムが撮影されている。特に、35mmカラーマイクロフィルムは97年度にフォトCDにデジタル化され、パソコン上での加工が容易となった。

さて、平成8年度からは、まず錦絵新聞の解読と検索項目の設定作業が開始された。以前に北原の解読した、瓦版の解読文章も有効利用すべく作業を行った。それらは、フロッピー化されたテキスト・印刷原稿として存在しており、フロッピーの文章は問題なかったものの、印刷原稿（フロッピーの発見できなかったもの）はスキャナーで読み込み、OCRソフトでテキスト化した。

#### <これまでの作業>

ハードはPower Mac8500と二台のPerfoma5410、Canonのスキャナーを使用。ソフトはフォトショップ・ファイルメーカーProを主に使用している。

アルバイト学生は5人（富沢達三・石山秀和・松尾美穂・重田麻紀・山本拓司）で、Perfoma5410でかわらばん・錦絵新聞の解読を行う。Perfoma5410では、ファイルメーカーProを使ってテキストデータを作成し、それらはPower Mac8500/132で取り込み、完成させる。

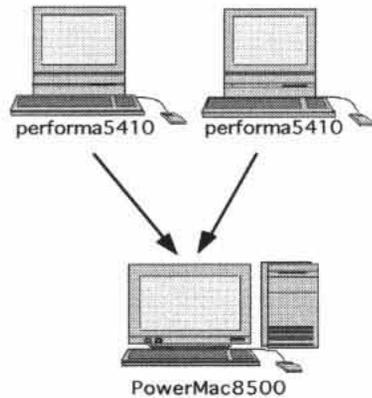
①社会情報研究所所蔵の資料の写真・紙焼き  
 (マイクロフィルムから作成)を解読し、テキ  
 スト化する。既にあった北原のフロッピー・富  
 沢の鯨絵解読テキストも使用。

→ファイルメーカーProで作った書式(図  
 1)に打ち込む。



②Power Mac8500で取  
 り込む。

→ファイルメーカーPro  
 作成の書式は共通なので  
 容易。



③フォトショップで作成の写真と合わせる。

→過去に撮った写真をフォトCDにして、フォトショップで加工。当初は暫定的  
 に、マイクロフィルムから焼いたカラー・白黒の写真を、直接スキャナーで読み込  
 んだものを使った。その後、カラーマイクロフィルムから、直接フォトCDに焼く  
 ことが技術的に可能となり、飛躍的に高画質の画像を得ることが出来た。このよ  
 うにして過去に撮影したマイクロフィルム、解読文章のテキストを有効に整理するこ  
 とができた。



データ入力用画面の内容を検討してみたい。絵画資料の場合、情報が多く、適宜に検  
 索項目を作ることは、研究者間の資料の共有化に大いに役立つであろう。画像情報に加  
 え、過去に社会情報研究所で付けられた名称・整理番号を考慮し、錦絵新聞用と瓦版用  
 に以下の様な2種類の入力画面を制作した。

## < 錦絵新聞用入力画面の項目について >

- ①表題名…資料名を入力。
- ②順番…各錦絵新聞の号数を入力。（これは典拠となった新聞の号数を示し、発行順を示している訳ではない。
- ③絵師…絵師の名を記入。
- ④写真…JPEG画像（カラー32000色）を添付するための欄。
- ⑤戯作者…文章を書いた当時の戯作舎の名を記入。
- ⑥出版元…版元の名をテキストで記入。別フィールドには、版元の印をJPEG画像にて添付。
- ⑦改印…当時の出版許可印である。JPEG画像（カラー32000色）を添付。

表題名 東京日々新聞		② 第 100 号	
絵師 芳幾 ③	版元名 七五郎具足屋	戯作者 転 七五郎主人 戯記	④ 
出版元 ⑥	発行年月 ⑦ ⑧		
彫師 渡辺彫家 ⑨	元の記事 なし ⑩	の記事	
大きさ ⑪	内容 狂女ですら其情、香羽屋の ⑫	備考 なし。97.1.20チェック ⑬	

### 解読文

なふなふ舟人ご問（とわ）ん。是（これ）は日里の辺（あたり）に／住居（すまい）する某（それがし）が妻にて侍（はべ）るが、此（この）川邊し／て玉ひてよ。といふに舟人うち驚き疑（いや）し／からざる奥様のこの深更（まよなか）に／さまよう）ハ。橋夫（おもうおとこ）を察（さ）／とりたる婦（ひと）を呪（のの）し／る時多（とき）まいる）か。笑の上と。清姫を二役（ふたやく）／かねた御形勢（おんありま）。は日高にあらざれば舟ハ進してまぬ／らせん。吟行（さまよい）たまふ／事故（そのわけ）を語り玉へと愚弄（なぶる）にぞ。あら／恥かしや音姿（わかすかた）他見（よそめ）／にそれと照さ／る 野辺の虫（の光る君。いと／し殿子（とのこ）に乘（の）／てられて。詮（せん）かた／夏の短夜（みじかよ）も／察（さ）られぬ（かや）の広房（ひろふ）なま／つ明（あか）す時鳥（ほととぎす）その初声（はつこえ）ハお／かしやと泣（な）か笑（わ）か生（な）れ（しょうたい）なく／涙（なみだ）にむせぶ狂乱（きやうらん）の女の所作（所作）は喜具屋（きしよ）うざ）に羽（は）／きのす鶴（つる）の／音羽屋（おとわや）が技藝（ぎぎ）（てふり）しき／評判（へいばん）に大繁昌（おほはんじやう）をすもむべなり

⑭

- ⑧発行年月…ここには、和暦を漢字で入力する。（これは欄外の改印によって特定出来る。）
- ⑨彫師印…彫師の印をJPEG画像にて添付。別フィールドには、彫師印のJPEG画像を添付。
- ⑩元の記事…錦絵新聞は、題材を当時の小新聞に拠っている。その、出典号の出版年月日を入力。
- ⑪大きさ…将来計測予定の、資料の縦・横の大きさをcm単位で入力。
- ⑫内容…内容を簡単に要約し、入力している。
- ⑬備考…そのほかの特記事項を入力するための欄（異版の有無などについて）
- ⑭本文…解読文を入力するための欄。入力の手順は瓦版のそれと同じである。

# <瓦版用入力画面と項目について>

①名前…資料名を入力。資料名は各資料の冒頭部にあることが多く。これをそのままとっている。冒頭部に名称の無い物は、仮題をつけ、後ろに仮題であることを示す記号の、(仮)を書き加えた。

②和暦…ここには、和暦を漢字・数字まじり文で入力。

③西暦…上記の和暦を西暦に換算してものを数字で入力。

④月…ここには、月・日付を数字で入力する。

⑤大きさ…過去に計測済みの、資料の縦・横の大きさをcm単位で入力。

⑥解読文…解読文の有無を、三段階でチェックしてある。(資料は極力読み下すように心がけたが、時間の関係上、一部のものもある。また、明らかに文字の判読が容易な資料もあり、その様なものは判読・入力作業を省略した。

⑦分類…社会情報研究所では、今回の小野コレクションの一枚摺り類を22種類に分類している。それをチェックボックスの形で示した。これにより資料種類の検索が可能となる。

珍事奇談 1
■ 蘭獸渡来
①

文政4
1821
4
40x28
5

解読文
●有 ○無 ○一部有
●U.K

分類  
 天竺  暹羅  東洋  外国  形札  封筒  書付  紙物綴り  その他

6
9

⑦
⑧
⑨

蘭獸 / 文政四年巴七月二日從 / 紅毛老番船渡来  
 恐身長サ武前余但シ足ヨリ頭迄 / 歩行事一日ニ日本道 / 五拾里行も■ク / 結事几千五百斤 / 食物一日ニ  
 米二斗 / 能ス水壹斗者 / 命スルコトヲ聞分ル事人聞テ / マサルタヘニ二日間食物なくシテ / 用ヲ并ス  
 ル事神妙也 / ヲツテ軍用ニ叶ふゆへニ / 御明し由テ / 老番船ヨリ結来ル何れも / 同様の役今在正茲略  
 但シ / 武正衆 文政四年巴十月 / 写之

12

⑧枝番号…上の「分類」で分けられた資料には、さらにそれぞれ番号が振られている。資料毎の枝番号を入力し、検索可能としている。

⑨チェック…すべての項目の入力が終了後、チェックするための欄(完成バージョンでは、削除する予定である。)

⑩写真…JPEG画像(グレー256色)を添付するための欄。

⑪備考…そのほかの特記事項を入力するための欄(異版の有無などについて)

⑫本文…解読文を入力するための欄。解読文は一部の歴史的仮名遣い(尔・ハ・ミなど)はそのまま再現した。資料の中の改行部は / で示してある。ふりがなは、( ) のなかに入力してある。また、その他の特記事項は [ ] のかっこ内に示した。

## 4. 今後の展望

以上のようにこのプロジェクトでは、社会情報研究所が所蔵する小野秀雄コレクションのなかでも、とくに瓦版と錦絵新聞についての画像データベース化の作業を進めてきた。既述のように、この作業は98年4月までにとりあえずの中間的なバージョンが完成する予定であり、さらに欠落部分や最終的に残っているものを加えた最終的なバージョンが、同年の夏までには完成する予定である。こうした作業の成果を踏まえ、我々としては今後、次のようないくつかの課題に取り組むつもりでいる。いうまでもなく、これらの作業は今回の助成の範囲を超えるものであり、新たに何らかの予算を確保する必要がある。

まず、今回、瓦版と錦絵新聞の画像データベース化を進めていくなかで獲得したノウハウを活用して、小野秀雄氏と深く関わる他のコレクションについても画像データベース化の作業を進めていきたい。なかでも、小野氏と戦中期の内閣情報部との関係から本研究所の前身である東京大学新聞研究所が所蔵することになったと思われる膨大な満州やフィリピン、南方方面での情報宣伝関係の資料について、整理と画像データベース作成の作業を進めていきたい。これらの資料は現在まだまったく未整理の状態にあり、作業としてはそれぞれの資料の正確な目録化から始めなければならない。

また、こうした作業と並行して、小野秀雄氏がいかなる意図や人間関係、同時代のコンテキストのなかでこれらの資料を収集していくことになったのかが明らかにされなければならない。たとえば、小野の収集した瓦版の資料に関しては、災害関係のものが多くことが指摘されるが、これは小野氏が収集をはじめた大正後期から昭和初期にかけて、関東大震災と災害情報とのかかわりを考えようとする関心があったこともうかがわせている。また、小野氏と内閣情報部や情報局との関係については、まだ十分に解明されていない点も多く、1930年代の総力戦体制と日本の新聞学の形成について今後とも様々な調査を進めていく必要があるように思えてならない。

他方、このような小野コレクションと初期の新聞学、ヴィジュアルなメディア資料の意味を考えていくために、今後とも専門家による研究会を継続的に開催していきたい。そして、これらの成果を基盤にして、最終的には1999年度末までに小野コレクションを中心とする展覧会を開催したいと考えている。

財団法人 ハイライフ研究所

会 長 白井 和徳  
理事長 鳥山 誠

〒104-8164 東京都中央区銀座1丁目8番14号

TEL 03-3563-8686

FAX 03-3563-7987